

令和6年度 学校教育自己診断 分析と課題

生徒

○分析

今年度は、昨年度と比較すると肯定的回答が微減した項目が多かったが、全体的には肯定的回答が多い結果となった。

生徒数が少ないからこそ、生徒個々への対応を丁寧に行えていることは、「(設問6) 先生は、話をよく聞いてくれる…91.8%」「(設問 9) 生徒の意見を聞き、悩みや相談に親身になって応じてくれる(ようだ)…93.8%」「(設問 10) 担任の先生以外にも、保健室や相談室で気軽に相談できる(ようだ)…89.0%」といった項目の肯定的回答の高さからうかがえる。

また、「(設問 18) 授業がわかりやすい…92.5%」や「(設問 28) 学校の授業は充実しており、満足できる…85.6%」と、授業の質に対して概ね高い満足度が示されており、かつ、主体的・対話的な学びの実践が進んでいることも、「(設問 24) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる…81.1%」、「(設問 25) 自分と違う意見を尊重できる…92.8%」、「(設問 26) 学校等で、他の人と協力し合うができる…90.1%」といった肯定的回答の高さから読み取ることができる。各教員が、生徒の学習状況に応じて、適当な目標設定と授業進行を実施できているといえる。

進路指導の充実という観点からも、「(設問 12) 進路について情報を知る機会や場所がある…97.3%」、「(設問 13) 自分の進路について相談する機会、話を聞いてもらう機会があった…91.1%」、「(設問 14) 充実した進路指導が行われている…93.2%」と、例年と同様に肯定的回答が非常に高い。このことから、わが校の強みの一つであるといえよう。

また、本校がめざす学校像である「安心して安全な学校」をつくっていくという観点では、「(設問2) 学校は落ち着いて、安心して授業を受けることができる…82.2%」、「(設問3) 学校は生徒指導がしっかりしている…86.3%」といった項目は高い肯定率を示しており、十分に達成できているといえる。

○課題

今年度の回答を学年別でみると、特に2年生の否定的回答が割合的に多く、全体の肯定的回答の割合が昨年度比で減少した。これは、2年生という学年の性質にも依るものであると思われる。例えば、「(設問 15) 行事(遠足や文化祭)は楽しい…91.1%」や、「(設問 16) ホームルーム活動は活発で、クラス全体で積極的にかかわっている…88.4%」と、肯定的回答の割合が大きいのに対して、「(設問1) 学校へ行くのは楽しい…76.0%」と、設問内容に対しての肯定的回答の乖離が見られる。これは、普段の学校生活においての、人間関係などの問題解決に悩みを日常的に抱えていることが要因ではないかと推測できる。また、そのような内容は、教員に相談しづらいケースや、教員が対応しにくいケースも少なくない。生徒の肯定的回答は、教員の直接的な対応の内容によって大きく左右されと考えられるため、全体的な肯定的回答の減少につながってしまったが、肯定的回答を非常に高い割合で維持できているため、次年度も継続して、丁寧な生徒対応を学校全体で取り組んでいきたい。

今年度は、様々な著名人を招聘し、人権講演会を3回実施した。その影響もあって、「(設問 17) 命の大切さやルールについて、学んだり考えたりする機会がある…97.3%」と、非常に高い肯定的回答が得られた。しかし、「(設問 27) 地域や社会、世界がより良くなるためにできることに取り組んでいる…73.9%」と、講演会で得たものをアウトプットしていく機会が少なかったことは、非常にもったいない。インプットしたものをアウトプットしていけるよう、学校全体で計画性をもって実行していけるようにしたい。

保護者

○分析

例年と同様、全体的には肯定的回答の割合が多く、学校への信頼感や満足度は概ね高いことがうかがえる。特に、「(設問1) 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている…74.3%」「(設問4) 学校は落ち着いていて、安心して学校生活を送ることができる…82.4%」といった、直接的に学校に対する信頼感を問う設問に対しての肯定的回答は、依然として高評価を維持している。

また、日頃の生徒対応についても、「(設問6) いじめやもめ事など、先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれている(そのように聞く)…81.1%」「(設問7) 子どもの悩みや相談に、先生は親身になって応じてくれている(そのように聞く)…85.1%」などから、各教員が丁寧に生徒とのコミュニケーションをとることができているといえる。併せて、「(設問10) 学校は、将来の進路や職業などについての適切な指導を行っている…91.9%」という肯定的回答の高さからも、学校の体制という観点においても、十分丁寧に対応できていると考える。

また、「(設問2) 子どもは、学校の授業がわかりやすく楽しいと言っている…66.2%」は、昨年度と比べて、肯定的回答が増加していた。今後とも、現状の生徒の学力に応じて、学習に対する肯定感や達成感を感じられるような、授業計画と実施を行っていききたい。

○課題

「(設問13) この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある…64.9%」については、昨年度と同様に、他の項目と比べるとやや低めの肯定的回答であった。学校運営協議会においても、「保護者がもっと学校活動に参加できるような機会を増やしてほしい」という意見も出ていたため、学校行事だけでなく、授業参観の機会を設けるなど、日頃の生徒の学校生活の様子を直に見てもらうことで、学校と家庭の連携を一層強化していくことにも繋げていきたい。

教職員

○分析

「(設問9) いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」「(設問11) 生徒一人ひとりが興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」「(設問14) 教育活動に必要な情報について保護者への周知に努めている」の3つの項目においては、100%の肯定的回答であった。生徒数が減少していくと共に教員数も縮小されている現状ではあるが、教員が対応しなければならぬ生徒数が少ないことで、生徒対応の丁寧さが向上し、また、「(設問2) 各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している…91.7%」や「(設問3) 学級経営の課題を事案により共有して解決に取り組んでいる…87.5%」の結果も合わせて、教員同士の連携についても、より密度のあるものになっているといえる。

○課題

「(設問5) 生徒の学力向上のため、学校全体で取り組みを行っている…75.0%」についてのみ、否定的意見が25%であった。各科目において、学習内容の定着のために丁寧に授業を行っているが、それを更に効果的にするために、例えば、学校全体で勉強会を実施するなどの機会を設けても良いのではないかと思われる。学年の意向も含みながら、検討して実施していきたい。